

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	いわき市	
施 設 名	いわき芸術文化交流館（アリオス）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	34,703	(千円)
	公 演 事 業	18,383 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,653 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	14,667 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	こどもの劇場 2022 小野寺修二 カンパニーデラシネラ『ふしぎの国のアリス』	4年4月9日	[構成・演出] 小野寺修二 [舞台監督] 橋本加奈子 [音響効果] 池田野歩 [音響] 黒野 尚 [照明] 吉本有輝子 [美術] 石黒 猛 [衣裳] 今村あずさ [出演者] 崎山莉奈、藤田桃子、大庭裕介、荒悠平、王下貴司、齊藤 悠、仁科幸、小野寺修二	目標値	272名
		中劇場		実績値	370名
2	いわきアリオス落語会 (第20回) + 地域落語会	本公演: 4年7月2日 アウトリチ: 5年2月5日	本公演: 立川志らく ランジャタイ アウトリチ: 春風亭一蔵 柳亭小燕枝 入船亭扇橋	目標値	480名
		本公演: 中劇場 アウトリチ: 勿来市民会館		実績値	545名
3	第10回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会	本公演: 4年10月9日 関連企画: 4年5月~5年3月	本公演: サッシャ・ゲッツェル(指揮) 牛田智大(ピアノ)、 NHK交響楽団(管弦楽) 関連企画: 三又治彦(ヴァイオリン)、 本間達朗(コントラバス)、 中山小燿子(ピアノ)、森田昌弘 (ヴァイオリン)、中村洋乃理 (ヴィオラ)、小島幸法(チェロ)、 西山真二(コントラバス)、 山際紗也香(ピアノ)	目標値	1,062名
		本公演: 大ホール 関連企画: 市内連携8施設		実績値	1,236名
4	吹奏楽とあゆむまちいわき発信事業 東京六人組 (木管五重奏&ピアノ)	本公演: 4年12月4日 アウトリチ: 4年12月2日 関連企画: 4年12月3日	上野由恵(フルート)、荒絵理子(オーボエ)、金子平(クラリネット)、福士マリ子(ファゴット)、福川伸陽(ホルン)、三浦友理枝(ピアノ)	目標値	730名
		本公演: 大ホール アウトリチ: 市内小学校 支援学校 関連企画: 大リハーサル室他		実績値	508名
5	演劇鑑賞事業	4年8月26日 4年10月30日※	[演目] パルコ・プロデュース 2022 『スルメが丘は花の匂い』 [出演者] 吉岡里帆、伊藤あさひ、鞆師里保、岩崎う大、牧野莉佳、もりももこ、小椋大輔、ふせえり	目標値	2,107名
		大ホール	※新型コロナウイルスの影響により中止 [演目] パルコ・プロデュース 2022 『凍える』 [出演者] 坂本昌行、長野里美、鈴木杏	実績値	484名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台技術基礎講座 ①「はじめの一步」 ②「ステップ2」	4年5月～4年7月	[講師] アリオステクニカルスタッフ	目標値	①30名 ②15名
		中劇場 他		実績値	①31名 ②10名
2	アリオス 子どもの弦学校 ／アリオス 大人の弦学校	4年5月～5年3月	[講師] 赤津真言(ヴァイオリン)、武澤秀平(チェロ&ヴィオラ・ダ・ガンバ)、塩貝みつる(ヴァイオリン)、小川和久(チェロ)、三上亮(ヴァイオリン)、對馬佳祐(ヴァイオリン)、馬淵昌子(ヴィオラ)、丸山泰雄(チェロ)、平野一彦(ヴァイオリン)	目標値	子供 14名 大人 20名
		大リハーサル室 他		実績値	子供 21名 大人 26名
3	市民文化芸術活動支援事業	4年5月～5年3月	加藤昌則(ピアノ)、小町碧(ヴァイオリン)、林田直樹(音楽ジャーナリスト/メディアコーディネータ)、小山実稚恵(ピアノ)、杉浦勝之(調律師)、山根悟郎(プロデューサ)、野見山桜(デザイン史家)、宮本美実(プロデューサ、アリオスアドバイザー)、福田里紗(アリオスアドバイザー)	目標値	50名
		カンティーネ 他		実績値	533名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程		概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			目標値	実績値
1	第8回 いわき文化春祭り	4年6月4日、5日	大ホール 他	[出演・出展・出店] いわき市文化協会加盟の100団体を中心とした市民の文化団体	目標値	10,000名
					実績値	6,000名
2	いわきアリオス・まちなか連携プロジェクト(いわき街なかコンサート)	4年10月1日、2日	中劇場	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	2,000名
					実績値	—※
3	ユニバーサルデザイン検討推進委員会事業「CAVA」	4年10月22日、23日	中劇場	マイムパフォーマンスユニット CAVA	目標値	225名
					実績値	126名
4	市内文化施設等連携事業	4年6月～9月	市立美術館 他	水永牧子(チェンバロ)、NUU(シンガーソングライター)、良原リエ(音楽家・アコーディオン)、シーナアキコ(音楽家・ガラクタ楽器奏者)	目標値	260名
					実績値	201名
5	第27回 たんけんアリオス	4年12月24日～25日	中劇場	アリオステクニカルスタッフ	目標値	80名
					実績値	57名
6	文化教養シリーズ——音楽の楽しみ方を、今一度考える——未来オーケストラ～生活者応援計画	4年10月～5年3月	音楽小ホール 他	浦久俊彦(文化芸術プロデューサー)、クリストフ・プレガルディエン(テノール)、ミヒヤエル・ゲース(ピアノ)、石川洋行(社会思想研究者・ピアノ)、伊藤豊雄(建築家)、足立優司(アリオス音楽学芸員)	目標値	70名
					実績値	130名
7	チェンバロコンサートのススメ4～古い時代の鍵盤楽器普及プロジェクト	4年10月～5年3月	大リハーサル室 他	大塚直哉(チェンバロ) 鈴木優人(チェンバロ)	目標値	110名
					実績値	88名
8	アリオス・ワンコインコンサート	5年3月2日、3日	勿来市民会館 他	神永大輔(尺八)、中村大史(ギター、アコーディオン、ブズーキ)	目標値	600名
					実績値	400名※
9	おでかけアリオス	4年6月～5年3月	市内小中学校、地域コミュニティ施設 オンライン 他	地元演奏家(3組)、「おでかけアリオス研究会」第4期アーティスト(2組)、鼓童(和太鼓)、寺井結子・菊地河山(箏・尺八)、加藤昌則(作曲・ピアノ)、カンパニーデラシネラ(身体表現ワークショップ)、田上豊(演劇ワークショップ) ファシリテーター：赤木舞(武蔵野音楽大学他講師、地域創造おんかつコーディネーター) パネリスト：中野将生(公益財団法人日立市民科学文化財団)、生田創(長久手市文化の家)、松岡優子(公益財団法人筑後市文化振興公社)、早川まこと(いわきアリオス)	目標値	2,200名
					実績値	3,124名
10	アリオス こどもプロジェクト	4年10月～5年3月	大リハーサル室 他	野口美夢(フルート)、大和田璃奈(オーボエ)、吉川清香(クラリネット)、金子歩未(ファゴット)、福川伸陽(ホルン)、三浦友理枝(ピアノ)、谷崎大起(ヴァイオリン)、千葉友希(クラリネット)、田母神夕南(ピアノ)、渡邊奈保子(ソプラノ)、原田由美(ピアノ)	目標値	300名
					実績値	186名※

11	リージョナル・シアター 2022 いわきアリオス演 劇部 U30	4年7月～5年3月	[演目] わが星 [講師・演出] 柴幸男 [出演] 端田新菜、石倉来輝、小林薫子、 高校生以上 30歳以下のオーデ ィションワークショップ参加者	目標値	入場者 364名 参加者 10名
		中劇場 他		実績値	入場者 250名 参加者 28名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価	
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。	
<p>◆社会的役割（ミッション）と事業の組み立て</p> <p>本市の特性は、中核市として市場規模を有しており、興行等においても一定の集客が見込める都市である。文化芸術に関心がある人口も多く、いわき市文化協会には360団体・12,000名が登録されており、公民館活動など中高年層を中心とした”草の根的”な文化活動も活発であることが強みである。</p> <p>一方、弱みとして、東北第2位、福島県第1位の人口を有しているが、全国規模で行われる興行ツアーでは、新幹線沿線の都市で行われることが多く、郡山市や福島市が中心である。市街地においては、モータリゼーションの進展に伴い、商業・サービス業の郊外移転が進んでおり、街なかの各種イベント等も縮小傾向と、街の賑わいが喪失しつつあり、街の魅力が乏しくなっている。中山間地域では基幹産業の農林業の衰退等に伴い、過疎化が顕著である。芸術文化面では中山間地域においては車の運転ができない学生や高齢者がそれらに触れる機会が得にくい環境にある。各種災害の多発、街の魅力の低下、医者不足など子育て環境面での不安など様々な要因により、若年層の人口流出、少子化が進行している。</p> <p>これらの特性を鑑み、令和元年度より4年間計画で下記4つのミッションを掲げ、6つのビジョン（戦略）のもと、それらに適した事業を計画し実施している。</p>	
<p>◎ミッション1《全市民の「心のライフライン」となる文化芸術を届ける》</p> <p>→ 【ビジョン1 質の高い舞台芸術に出会い、世界へ繋がる場をつくる】 対象事業：【公演2】いわきアリオス落語会 【公演3】NHK交響楽団いわき定期演奏会 【公演5】演劇鑑賞事業</p> <p>【ビジョン2 誰もが気軽に様々な文化芸術活動に触れられる機会をつくる】 対象事業：【普及1】こどもの劇場【普及3】ユニバーサルデザイン推進事業 【普及5】たんけんアリオス 【普及7】チェンバロ コンサートのススメ【普及8】アリオス・ワンコインコンサート 【普及9】おでかけアリオス【普及10】こどもプロジェクト</p>	
<p>◎ミッション2《連携の徹底的な強化により地域の活性化にコミットする》</p> <p>→ 【ビジョン3 地域と人と共に歩み、様々な機関との連携を強化しともに市民生活を支援する】 対象事業：【公演2】まちなか連携プロジェクト【普及5】市内文化施設等連携事業</p> <p>【ビジョン4 市民による文化芸術の創造活動を支援する】 対象事業：【普及1】文化春祭り 【公演11】リージョナルシアター</p>	
<p>◎ミッション3《市民参画により文化芸術のある社会を次世代へ継承する》</p> <p>→ 【ビジョン5 文化芸術の情報集積と発信、交流の場となる】 対象事業：【公演4】吹奏楽とあゆむまちいわき発信事業【普及6】文化教養シリーズ</p>	
<p>◎ミッション4《地域に好循環をもたらす持続可能なモデルの構築》</p> <p>→ 【ビジョン6 文化芸術に関わる人材を発掘、育成する】 対象事業：【人材1】舞台技術講座【人材2】子どもの弦学校・大人の弦学校 【人材3】市民文化活動支援事業</p>	
<p>◆事業の進行について</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響は昨年同様続き、事業の中止・延期・縮小を求められ、日程変更・内容変更・会場変更などを行なったの実施となったが、各事業での目標達成率は高いものとなった。変更が生じてもプログラムを市民に提供できたことで、様々な制限が多くなった市民の日常生活に心に潤いある生活を取り戻す一助となることができた。</p>	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>プロの実演家を講師に市民が舞台創作を行う事業や、市民の生活の中に文化芸術を届けるアウトリーチ事業などを通し、市民が創造的な日常を送る一助となっている。（文化的意義）</p> <p>若手の実演家をオーディションで選考しアウトリーチプログラムを創る研修事業や、舞台技術基礎講座など、本市で文化芸術を通して生活を送る市民の育成事業を通して、社会的貢献をしている。（社会的意義）</p> <p>地方の劇場・音楽堂での予算規模では難しい招聘公演や一流の実演家の招聘及び、市民の文化芸術活動の支援を継続して可能となっており、市内だけではなく、市外・県外からも公演鑑賞、ワークショップなどへの参加があることから、遠方からの集客及び本市の経済波及効果の一助となっている。（経済的意義）</p>	

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

《公演事業》 ビジョン1に該当（一部ビジョン2に該当）

目標1：実施回数の担保

【目標：公演数 25 回 [内訳：主催公演 8 公演 共同主催：4 公演 共催公演 13 公演]

→ **結果：27 回 達成率：1108.0%** [内訳：主催公演：6 公演 共同主催：4 公演 共催公演：17 公演]

主催公演は、新型コロナウイルスの影響により2公演中止となったが、共催公演が増えたことで目標を達成することができ、ミッションである**文化芸術に触れる機会の創出・改善に繋がった**

目標2：来場者数の拡大→目標：年間の公演来場者数 18,000 名以上 ※共同主催、共催公演含む

→ **結果：18,272 名 達成率：101.5%**

新型コロナウイルスの影響はあったものの目標値を超えることができ、多くの市民が実演芸術に触れることができた

目標3：鑑賞機会の拡大→目標：公演に対する理解や質を高める関連事業 10 回

→ **結果：16 回 達成率：160.0%**

公演の理解を深めるだけではなく、実演家と市民との交流や、子どもたちへ楽器の技術向上支援、観光や商業施設との連携など、間近で実演家・実演芸術に触れる機会を多く創出することで、心豊かな生活を送れる市民拡大に寄与した。

目標4：公演内容の満足度→目標：満足度 86%以上

→ **結果：89.6% 達成率：104.1%** ※無回答の数値を除く

関連企画の内容の充実と回数を増やしたことが、結果として公演内容の満足度向上に繋がった可能性はあり、今後も丁寧な事業創りを図っていく

《人材養成事業》ビジョン6に該当

目標1：事業参加者の拡大 → 目標：参加者数 130 名

→ **結果：587 名 達成率：451.5%**

多くの市民の方が興味関心を抱きご参加いただいたことにより、目標値を大きく上回る結果となった。ご自身で活動したい方や、サポートする側になりたい方など、様々な考えを持った市民の方にご参加いただけたことで、ミッションで掲げている**本市ならではのモデル構築の第一歩**となることができた。

目標2：プログラム数の確保 → 目標：実施件数 5 件

→ **結果：5 件 達成率：100.0%**

目標通りのプログラムの数を100%確保することができ、本市における**持続可能な形で「文化芸術のあふれるまち」の実現の一助**となることができた。

目標3：インターンシップやスタッフ研修等の受け入れの改善 → 目標：受け入れ件数 5 件

→ **結果：3 件 達成率：60.0%**

新型コロナウイルスの影響により、インターンシップ等の件数が減り目標達成には至らなかった。

目標4：地域で文化芸術活動を行なっている学校・団体の持続可能な活動支援

→ 目標：連携・関係団体数 17 団体

→ **結果：17 団体 達成率：100.0%**

市外の学校や、地域協力隊、商工会議所、観光振興団体等との新たな関係構築を図ることができ、目標達成に至った

《普及啓発事業》ビジョン2～5に該当

目標1：事業内容の充実を図る機能の構築→目標：連携・関係団体の数 70 団体

→ **結果：87 団体 達成率：124.2%**

目標2：地域プログラム（ホール外）の拡大→目標：実施回数 215 回

→ **結果：272 回 達成率：126.5%**

目標3：市内全域への文化芸術の普及→目標：行政区分 13 地区全て での事業実施

→ **結果：13 地区 達成率：100.0%**

目標4：プログラムへの参加者拡大→目標：参加人数 16,000 名

→ **結果：51,575 名 達成率：322.3%**

目標5：市民参画プログラムの構築→目標：プログラム数 15 個

→ **結果：15 個 達成率：100.0%**

コロナ禍ではあったが、全ての項目で目標を達成することができた。関係機関との連携による共創を少しずつではあるが強化できており、ミッションで掲げている「地域に潤いと活力を生み出す」の達成に寄与することができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和4年度の各事業について、当初計画に基づき準備制作等進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、公演事業、普及啓発事業において中止しなくてはならない事業があり、計画通りに全ての事業を実施することは困難であった。

アウトリーチ事業においては、教育委員会から学校側に発出されている感染対策が別があり、一般対象の事業よりも制限が多く、各校の校長判断によって実施の可否や内容等に大きな影響を受けた。そのため、通常よりも学校側とのやりとりの回数や実演家との協議の時間は増えたものの、その時にできる最善の策を講じ、1つひとつ丁寧に事業を組み立てることができたのは、持続可能なモデルの構築にも繋がった。

これらについては、アウトリーチのシンポジウムや他館の職員や地域実演家への研修会へ繋がったり、事業を通して得た技術等をアウトリーチ事業から派生して学校側から相談があったオンラインを活用したプログラム創りと技術提供を行うことに繋がったり、ミッション2「連携の徹底的な強化により地域の活性化にコミットする」の達成に近づくことができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費についても同様で、中止になってしまった事業があることから当初の計画通りに進めることは不可能だった。

公演事業においては、5事業中、1事業で新型コロナウイルス感染症が理由で1つのプログラムが中止となり、その事業の執行率は61.3%という結果となった。その他の事業においては、執行率85%を超えとなり、計画通りの執行となった。

収入においては、3事業で目標値の100%~151%となったが、公演が中止になったもの、感染対策を講じ、客席設定を通常より減らしたことや感染拡大による買え控えがあったものもあり、全体では目標値の75.5%という結果となった。

人材養成事業においては、3事業を実施し、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、プログラム内容の変更や市外からの外部舞台スタッフの依頼を減らし内部スタッフで対応するなどの対応を行ったことで、全体で74.6%の執行率となった。

収入においては、額が大きくないこともあり、目標値の106%の達成という結果となった。

普及啓発事業においても同様、11事業中、3事業で新型コロナウイルス感染症が理由で中止となったプログラムを含んではいるが、当初計画通りに執行できた事業が昨年度から増え81.8%の執行率となった。

収入においては、観覧料及び参加費を計画していた事業が11事業中6事業（内1事業内でプログラム中止有）であり、当初計画の66.3%の収入という結果となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当館は開館以来、事業（ソフト面）や施設（ハード面）に対し多くの賞を受賞している。

【第33回有馬賞】

平成25年には、国内最高峰の実演芸術団体であるNHK交響楽団より、「第33回有馬賞」を受賞した。当館のアウトリーチ事業「おでかけアリオス」等が、震災復興への貢献や、音楽の普及に寄与してきたことが評価され、開館当初から業務提携を結び、東北唯一の定期演奏会を実施してきたことで、NHK交響楽団の活動に貢献したことが、受賞の理由となっている。

【地域創造大賞（総務大臣賞）】

平成26年には、文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献が評価され、（一財）地域創造より「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞。

【文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）】

平成26年には、行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげたとして、「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」を受賞。

【キッズデザイン賞2017】

平成29年には、宮崎県を拠点に活動する実演芸術団体「んまつーポス」との協働により、子どもの豊かな感性や創造性に寄与する活動等で成果をあげたとして、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会より「キッズデザイン賞2017」を受賞した。

これらの受賞歴が示すように、当館が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した事業を展開していることを、対外的にも評価されてきた。それは開館から今まで、様々な事業を高い水準で実施してきたことが要因としてあげられる。

鑑賞事業においては、常に芸術性の高さ、内容の独創性を念頭に置いて実演芸術団体を選び、市民の「世界への窓」たることを目指してきた。

一方で、アウトリーチやワークショップ、市民と一緒に作り上げる創造事業では、常に市民の目線に立ち、一方的に文化芸術を押し付けるのではなく、本市で育まれてきた人や土地を活かした事業を目指してきた。

文化芸術における最高峰の体験と、本市に根差した文化芸術の育成を同時に行うことで、地域の文化拠点としての役割を存分に発揮することができたと考えている。

		表彰名	表彰者	受賞の理由	受賞者
ソフト面における受賞	①	第33回有馬賞 受賞：平成25年10月5日	NHK交響楽団	おでかけアリオス等による震災復興への貢献。音楽の普及、NHK交響楽団への貢献。	いわき市
	②	地域創造大賞：総務大臣賞 受賞：平成26年1月17日	(財)地域創造	文化芸術の振興による創造性豊かな地域づくりの貢献。	いわき市
	③	文化庁長官表彰 (文化芸術創造都市部門) 受賞：平成26年3月31日	文化庁	行政が住民、企業や大学と協力し、地域の特色を活かした文化芸術活動によって、地域振興を図り、顕著な成果をあげた。	いわき市 ※本庁舎ロビーに展示
	④	キッズデザイン賞2017 受賞：平成29年度	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会	子供の豊かな感性や創造性に寄与する活動等を行い、成果をあげた。	いわき芸術文化交流館 宮崎大学高橋のみ子研究室 んまつーポス
【受賞一覧】 ハード面における受賞	表彰名		賞の内容		受賞者
	⑤	照明普及賞 受賞：平成21年5月21日	照明学会	照明学会により優秀な照明施設に授与される賞	いわき市 佐藤尚巳 湯山康樹
	⑥	日本建築家協会優秀建築選 受賞：平成21年度		優秀な建築作品に授与される賞	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
	⑦	国際建築賞 2010 受賞：平成22年5月		世界各地の最先端の優れた建築デザインに贈られる賞で、世界的に最も名誉ある賞のひとつ	佐藤尚巳建築研究所 清水建設株式会社
	⑧	劇場技術者協会 建築賞優秀建築賞：平成22年7月		アメリカの劇場技術者協会が世界規模で優れた劇場施設に贈る賞。(国内3施設目)	いわき市
	⑨	北米照明学会照明賞優秀賞 受賞：平成22年7月5日		芸術的、科学的見地から優れた照明デザインに与えられる、世界的に権威のある賞のひとつ	佐藤尚巳 湯山康樹
	⑩	第51回 BCS賞 受賞：平成22年11月15日		創立100周年を迎える「建築業協会」が、毎年我が国の優れた建築物に贈る賞。国内の建築関係者からも毎回大きな注目を集める権威ある賞	建築主：いわき市 設計：佐藤尚巳建築研究所・他 施工：清水建設株式会社・他
⑪	第31回福島県建築文化賞 優秀賞 受賞：平成26年度		福島県において、地域の周辺環境に調和し、かつ景観上優れている建築等に贈られる賞	いわき市	

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当館の4カ年事業戦略（2019年度～2022年度）において、最も重きを置いているのが『連携』事業である。事業の特徴としては、市内の文化施設と連携したコンテンツを開発することで、聴衆には当館単独ではカバーしきれない「地域資源」の学びと、当館の強みである「実演芸術」の魅力発見の両面を効果的に提供できる点大きい。

令和4年度の連携事業は、市内公共施設および民間劇場と連携することにより、実演芸術に興味を持つ市民だけでなく、幅広い市民に訴求する事業を展開できた。コロナ禍により会場の収容人数が減り、入場料収入も減ってしまったが、助成のおかげで実施することができた。

文化施設連携では、美術館、文学館と共通のテーマを持つことで、当館を含め3館連携の事業を実施することができ、当館の強みである「実演芸術」を活かした事業を展開した。互いの施設での公演やイベントを通じて、「地域資源」と「実演芸術」への興味を喚起させる機会をつくることができ、実施に向けてそれぞれの顧客と聴衆にアプローチし、多くの方に参加してもらうことができた。

演劇を軸とした市民との創造事業「リージョナル・シアター」も同じく当初の計画のままでは実施が困難であったが、オンラインを活用するなど、すべての事業を最後までやり遂げることができた。実演芸術において最も重要である「観客の前で上演する」ことが実現できたことは、大きな意義があった。「市民参加」を主軸に、様々な対象に向けて内容の異なる事業を実施したが、どの参加者にも新しい発見や実演芸術に関わる喜びを与えることができた。コロナ禍により様々な活動が難しい状況であるが、年齢的なことや、環境によって、今しか参加できない方も大勢いる。当館のような公共施設が感染対策を万全にしながら実施することで、市民に安心して参加してもらい、市民の「今」を掬い（救い）取ることで、日常生活に潤いをもたらすことができた。

アウトリーチ事業「おでかけアリオス」でも、これまで実施した新型コロナウイルス感染症対策を講じたアウトリーチのスキルを活かしつつ、より状況に合ったプログラムづくりやオンラインを活用した実施方法に取り組み、学校や地域コミュニティの場で間近で実演芸術を鑑賞・体験する機会を提供できた。市民が安心してアウトリーチ事業に参加できるように、関係者との連携や情報共有を心掛けたことで関係の強化にも繋がった。助成を受けたことで学校だけでなく地域でのアウトリーチも参加費無料で実施でき、幅広い年代の市民が気軽に文化芸術に触れられる場をつくることができた。令和3年度より地元在住・出身の実演芸術家をオーディションで選考し第4期メンバーとして活動を開始した「おでかけアリオス研究会」では、令和3年度中は感染症の影響で本番を迎えられなかったが、令和4年度は無事子どもたちを対象に、学校のニーズと感染症に対応したプログラムづくりを丁寧に行い、本番を向けることができ、アウトリーチのスキルを向上に繋がった。

令和4年度新規事業である「市民文化芸術支援事業」では、世界的に活躍する演奏家と、その演奏家を支える職業人の話を聞く機会を設けることができ、調律師や劇場スタッフなど芸術文化を支える人材が世の中に存在していることを、市民にあらためて知らせる機会となった。また、他者から見た視点で、自分たちの暮らすまちの特徴や個性を参加者に改めて知ってもらうことができ、自分の身の回りのことに対する視点・視座を変えることが、新たな気づきに繋がり、新たなコミュニティができるきっかけとなった。

市民の発案による事業が形になり、今まで鑑賞活動が中心だった市民の有志が、自分たちの発案によりコンサートやイベントを制作することの楽しさや手応えを感じるきっかけとなり、アリオスとの定期的な情報交換会を催すことで、施設を利用することや文化芸術に関わることに對するハードルを下げることに繋がった。次年度以降に、自分たちが主催となり講演会や新たな文化祭イベントを催したいという提案をするなど地域の文化芸術の発展へ繋がった。

アリオス☆弦学校においては、こども楽器プロジェクトとの連携により、世界的に活躍する演奏家やNHK交響楽団の団員が講師を務めるという、指導水準の高さと、同プロジェクトから当館が預託されている「楽器図書館」の活用により、単なるヴァイオリンを習っている子どもの技術的な底上げにとどまらず、全く初心者にも楽器を無償貸与して市内のヴァイオリン教室を紹介したり、さらに成長期の子どもに対しては分数楽器の貸与によってその成長をサポートするなど、子どもがヴァイオリンを習う時に発生する大きな負担を軽減することができた。コロナ禍によって年度前半は予定通りの実施ができなかったものの、下半期からは計画通りに実施することができ、子どもたちが毎月2回ずつプロ奏者の指導を受ける機会を整えることができた。この事業を通じて、単にヴァイオリンを習っている子どもの技術的な底上げにとどまらず、全く初心者にも楽器を無償貸与し、また市内のヴァイオリン教室を紹介し、さらに成長期の子どもに対しては分数楽器の貸与によってサポートするなど、子どもがヴァイオリンを習う時に発生する様々な負担を少しでも軽減することで、弦楽器を習いたいと思っている子どもたちが実際に学び始められ、継続できるようになるためのサポートをすることができた。これによって市民の文化水準自体を向上させる効果も期待できると考えられる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【運営方式について】

当館は開館以来、事業運営を「市の直営」、施設維持管理を「PFI事業者による管理」とする併用方式を用いてきた。

このうち、「PFI事業者による管理」は令和4年度を以て会館以来、15年間の契約期間が満了するため、令和5年度以降、令和14年度までの10年間は「包括的民間委託」により施設維持管理を実施することとしたところである。（現契約は令和5年度～9年度の5年間）

【雇用について】

① 事業の公共性の視点

公の施設として、公共性・公平性の視点に立った利用者サービスを円滑に進めるとともに、市の直営方式に固有の庶務・財務事務を適正に処理し、専門スタッフを中心とした自主企画事業の推進をサポートするため、市の正規職員9名（行政職8名、技術職1名）を配置。

② 事業展開の有効性の視点

劇場・音楽堂運営、舞台芸術に関しては、特殊かつ高度な技術を要するものであることから、各分野において専門的かつ高度な知識・経験を有する優れたスタッフを、全国から招聘・募集し、会計年度任用職員（34名）を雇用。

これらの運営および雇用方式により、以下のメリットが得られていると考えている。

- ◇専門分野におけるスタッフを会計年度任用職員で雇用することで、市の正規職員のような人事異動が無いことから専門性の継承が確保される
- ◇会計年度任用職員として雇用した専門スタッフは単年度契約更新を基本とし、最大5カ年の雇用。以降の更新は人事評価を行った上で決定しており、職員の質の維持が可能
- ◇会計年度任用職員の退職に伴う補充採用に当たっては、地元在住者の採用を選考の一視点としており、地元の人材育成を志向している
- ◇市の正規職員の配置により、市特有の財務事務、庶務事務に対応出来るとともに、関係部署との円滑な連絡調整が可能
- ◇舞台設備の補充や設備機器の補修は、PFI事業者との連携体制により、即時の対応を可能としている。（令和5年度以降も包括的民間委託の受託事業者との連携による対応を継続）
- ◇当館の建設準備時代から築いてきた市民や市民団体とのネットワークを有効に引き継ぐことが出来ている

【収益基盤と財源について】

開館以降当該水準を大きく逸脱することなく推移していることから、安定した運営状態にあると言える。しかしながら、令和2年度以降の、いわゆる「コロナ禍」の渦中においては、感染拡大防止のための休館や、演者等の感染に伴う公演中止などによる観覧料、貸館収入の低減は顕著であり、また、今後、人口減少や少子高齢化など社会構造の変化により、財政的制約は益々強まることが想定される。当館においても、事業運営上の本旨に重点を置きながらも、経費縮減と自主財源の獲得に注力する必要があるとの考えており、令和5年度より館内施設にネーミングライツを導入したところである。

【各方面とのネットワーク形成】

全国規模の劇場・音楽堂の職員を対象にした研修への参加および講師としての参加や、他館からの職員研修の受け入れ、当館自主事業での情報交換会の実施、他館との連携事業の実施など、普段より全国の劇場・音楽堂とのネットワーク強化を目指し運営している。また、当館の事業を通し、本市教育委員会の理解の元、市内小中学校へのアウトリーチ事業の実施や、市内の高等学校の文化部への支援活動、教育大学の協同による事業の実施、音楽大学をはじめとする大学等からのインターンシップの受け入れなど、教育機関とのネットワーク強化にも力を入れ運営している。

【施設面】

施設の維持管理に当たっては、市が事業者を選定したPFI事業者と館スタッフが連携し、中長期の維持管理計画に則り、適切な修繕・維持管理を実施してきた。

包括的民間委託に移行後も、受託事業者との連携し、当該計画に則した適切な維持管理を継続する。

また、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、施設を将来にわたり総合的かつ計画的にマネジメントしていくための「いわき芸術文化交流館個別管理計画」を令和3年6月に策定した（計画期間：令和14年度まで）。